



ドリル



Photoshopの機能を実際に使ってみよう

LEVEL 2で解説している「パス・シェイプ」(49ページ)、マスク機能(62ページ)、「色調補正」(72ページ)についてそれぞれツールを使って実践してみましょう。



関連項目 書籍の49ページ～「パスとシェイプとは？」

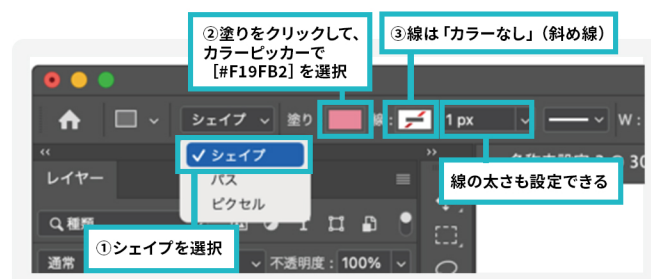
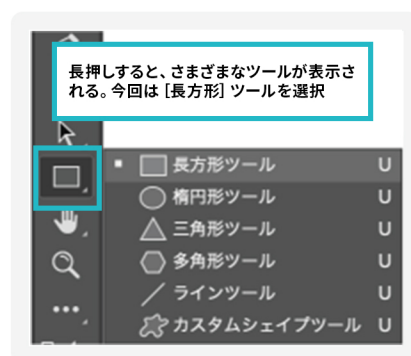
[長方形ツール] や [パスツール] などを使いながら、実際にシェイプとパスを作ってみましょう。

■ [長方形ツール] を使ってシェイプを作る

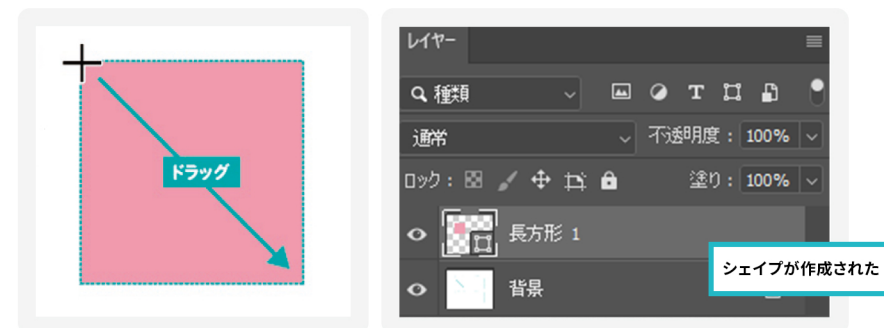
「STEP2-4-0.png」をPhotoshopで開き、[長方形ツール][楕円形ツール]などでシェイプを作成する方法を確認してみましょう。

ドラッグしてシェイプを作る

[長方形ツール] を選択すると、オプションバーが現れ、[パス] または [シェイプ] を選択できます。初期設定は [シェイプ] が選択されているので、このまま作成してみましょう。[シェイプ] の場合は塗りの色や線の色・太さを設定できます(後から変更も可能)。

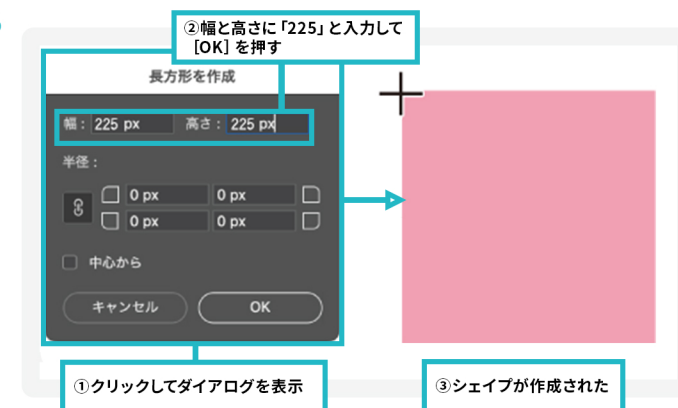


①の■をクリックして点線の→をドラッグすると、[レイヤーパネル] にシェイプが作成されました。



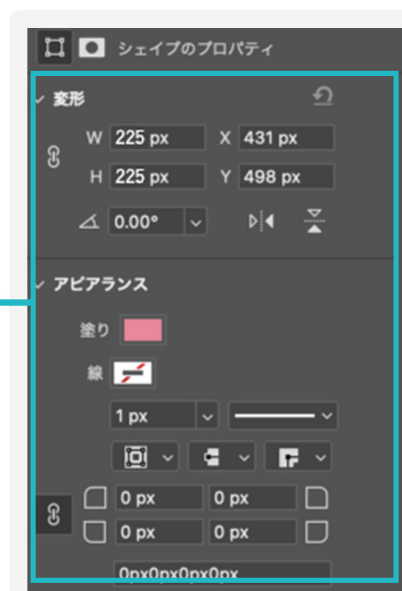
サイズを指定してシェイプを作る

②の■をクリックすると、ダイアログが表示され、そこにサイズ(幅・高さ・角丸の半径)を入力してシェイプを作成します。あらかじめ欲しいシェイプのサイズがわかっている場合にはこちらを使用して作成しましょう。



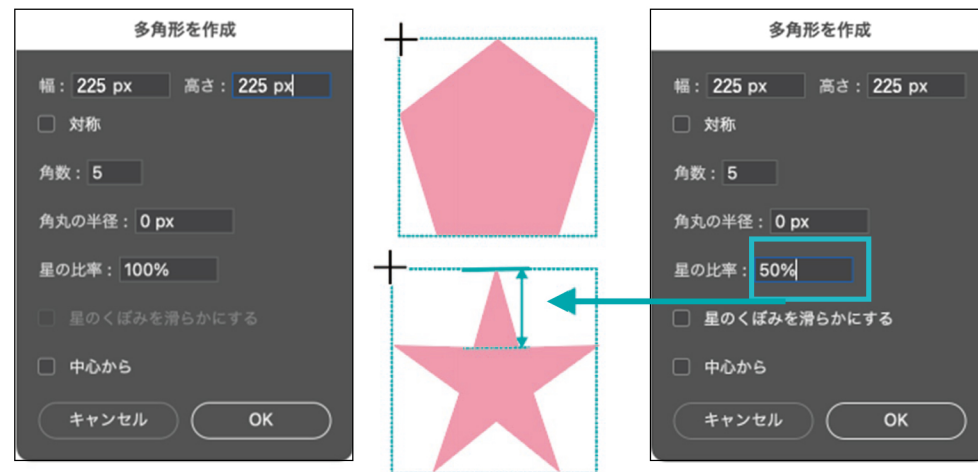
作成後は [レイヤーパネル] でシェイプレイヤーを選択し、[プロパティパネル] または オプションバー から、サイズや塗りや線を編集できます。

作成後はここから編集可能



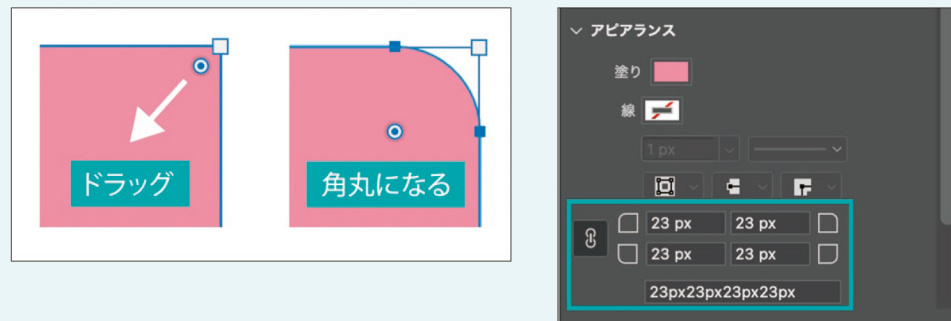
TIPS

星型のシェイプを作る場合は、[多角形ツール] を選択し、クリックしてダイアログを表示して、以下のように設定します。



COLUMN 角丸が直感的に作れるライブシェイプ

[長方形ツール] などで作成した「パス・シェイプ」を見てみると、四隅に二重丸のアイコンが表示されています。これは [ライブシェイプ] という機能で、ドラッグして直感的に角丸を作成できます。

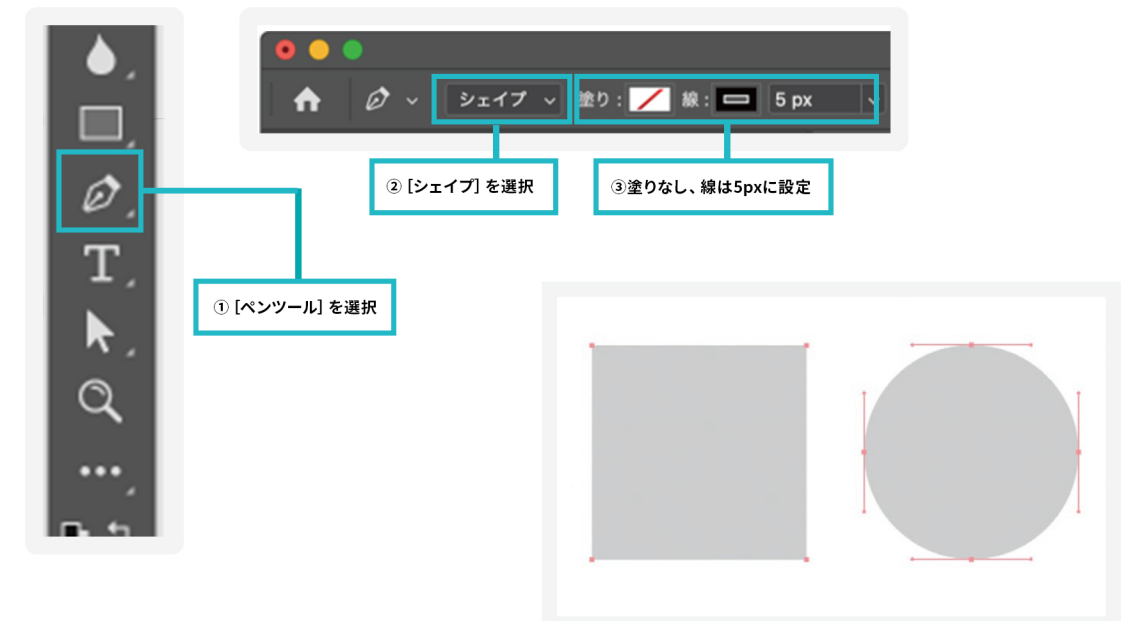


ドラッグして作成した角丸は[プロパティパネル]で確認、再設定が可能

■ ペンツールを使って描画する

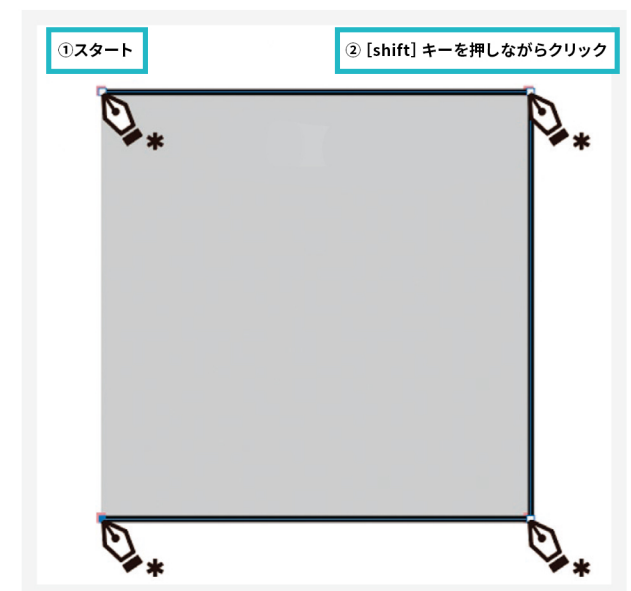
四角を描く

「STEP2-4-1.png」をPhotoshopで開きます。ツールバーから [ペンツール] を選択し、オプションバーで [シェイプ] [塗り：なし] [線：5px] と設定します。線の色はわかりやすければ何でもOKです。



「STEP2-4-1.png」画像を開くと、グレーで正方形と正円があらかじめ下描きされている。

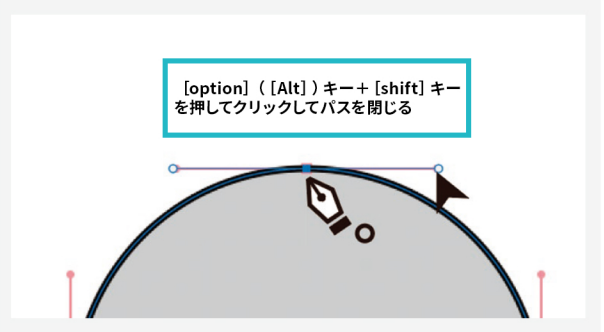
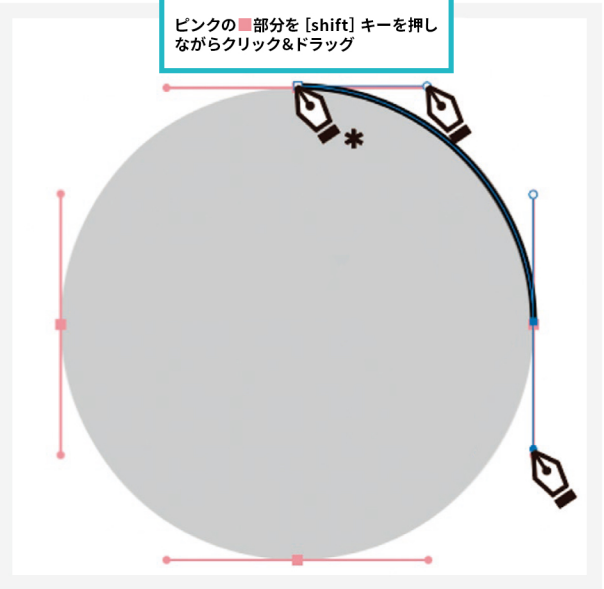
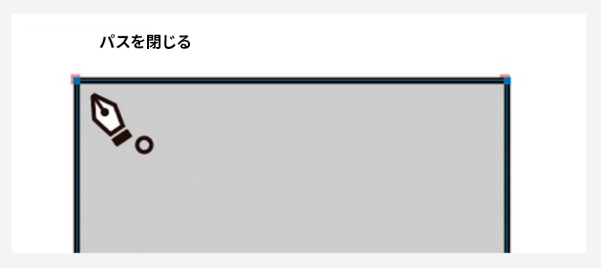
カーソルを左上の■に合わせてクリックして、[shift] キーを押しながら右上の■をクリックします。[shift] キーを押しながら移動で、垂直・水平にアンカーポイントを作成できます。同じように[shift] キーを押しながら、右下の■、左下の■をクリックしていきます。



最後は左上の■に戻り、カーソルを左上のアンカーポイントに近づけて、カーソルの右下の表示が○になったらクリックして、シェイプを閉じます。
[return] ([Enter])キーを押して編集を終了します。

丸を描く

続いて、右側の丸を描いていきます。中央上からスタートします。今度は、クリックしたらそのまま[shift]キーを押しながら右にドラッグし、ハンドルを引き出していきます。続いて、右下に移動して同じようにクリックして[shift]キーを押しながらドラッグします。[shift]キーを押すことで、垂直・水平方向にハンドルを引き出せます。



同じように繰り返し、左のアンカーポイントまで作成できたら、最後は中央上でパスを閉じます。

ハンドルがあるアンカーポイントの場合、このまま閉じてしまうと最初に作成した右半分のハンドルも一緒に動いてしまいます。それを避けるため、ペンツールのカーソルを中央上のアンカーポイントに近づけて、カーソルの右下の表示が○になったら、[option] ([Alt])キーと[shift]キーを押しながらクリックして右側にドラッグしてパスを閉じます(今回は水平方向にハンドルを引き出したいので、[option]キーに加えて[shift]キーを押します)。[return] ([Enter])キーで編集を終了します。

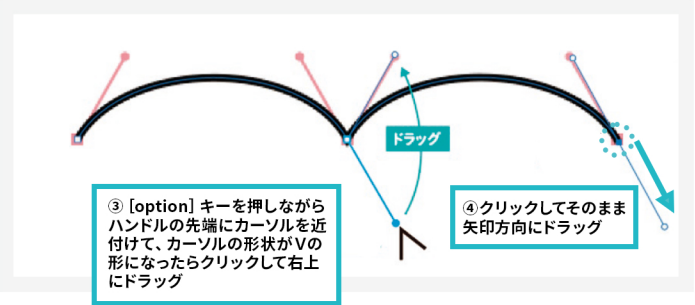
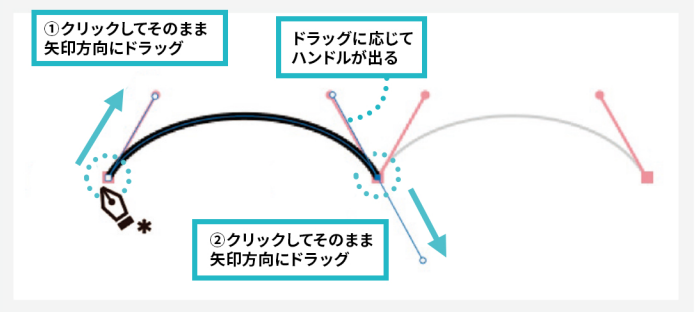
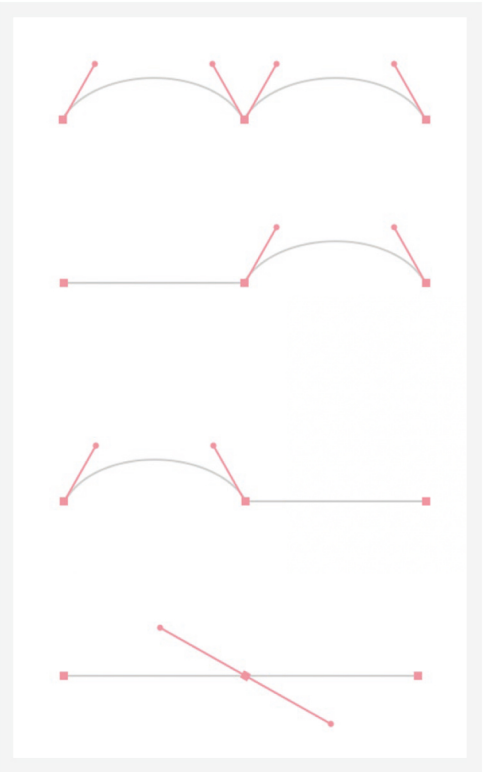
ペンツールで直線と曲線の組み合わせを描いてみよう

途中で方向が変わる曲線を描く

「STEP2-4-2.png」をPhotoshopで開きます。4つの直線と曲線を組み合わせた形が用意されています。この4つがあれば大体の形状を作ることができます。

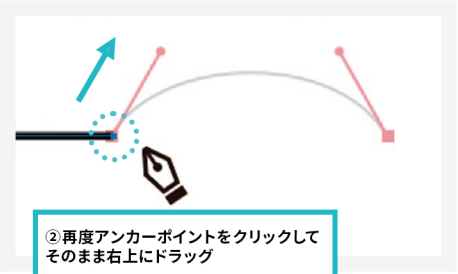
上から順にやっていきましょう。
まずは一番上にある「途中で方向が変わる曲線」です。一番左側にあるポイントをクリックしたらそのままマウスを離さずに、右上にドラッグし、次のポイント(■)をクリックしてそのままプレスした状態で、右下方にドラッグします。このとき、クリックしたポイントをアンカーポイント、ドラッグした方向に出てくる線をハンドルと言います。ハンドルによって、曲線の角度を調整できます。

このあと、3つ目のポイントをそのままクリック&ドラッグすると、パスが右下に向かってカーブしてしまいます。そのため、2つ目のアンカーポイントから出ているハンドルのうち、下半分の変更します。[option] ([Alt])キーを押しながら、ハンドルの先端にカーソルを近づけるとカーソルがVのような形状に変化します。この状態で右上にドラッグするとハンドルを片方ずつ操作できます。これが「アンカーポイントの切り替えツール」です。通常、連動して動く両側のハンドルを片方ずつ、動かすときに使います。

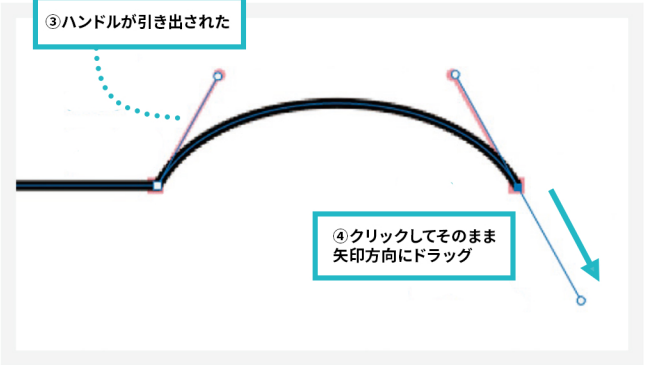


■ 直線のち曲線を描く

次に上から2つ目にある「直線ののちに曲線を描く」練習です。左の■をクリックし、[shift]キーを押しながら真ん中の■をクリックします。

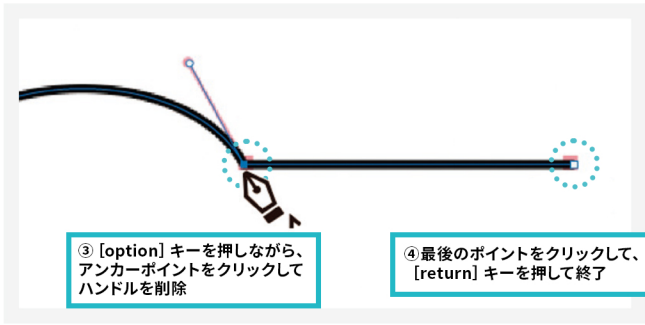
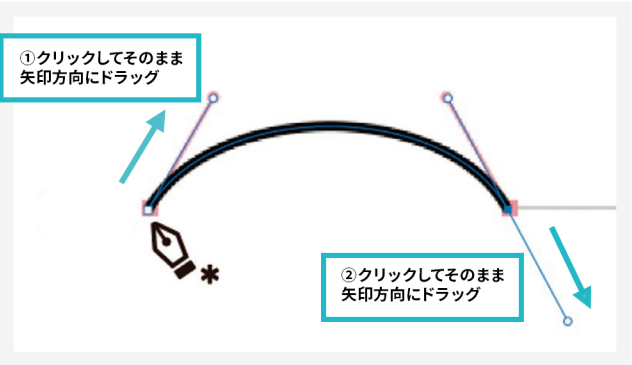


[shift]キーを押したため、水平な直線が引けました。このあとに曲線を描くため、ハンドルを片方だけ引き出します。真ん中の■を再度クリックし、そのまま右上にドラッグして離すとハンドルが引き出されました。



■ 曲線のち直線を描く

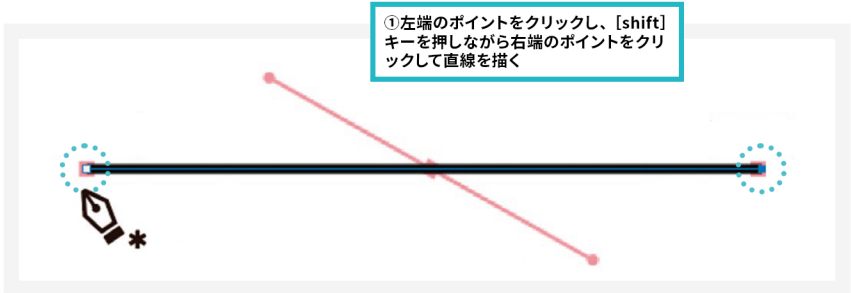
先程とは逆に、今度は「曲線ののちに直線を描く」練習をします。左の■をクリックして右上にそのままドラッグし、2つ目の■をクリックしてそのまま右下にドラッグして曲線を描きます。このまま次の■をクリックすると、次のアンカーポイント間も曲線になってしまうため、クリックする前に下半分のハンドルを削除して直線を描ける状態にします。



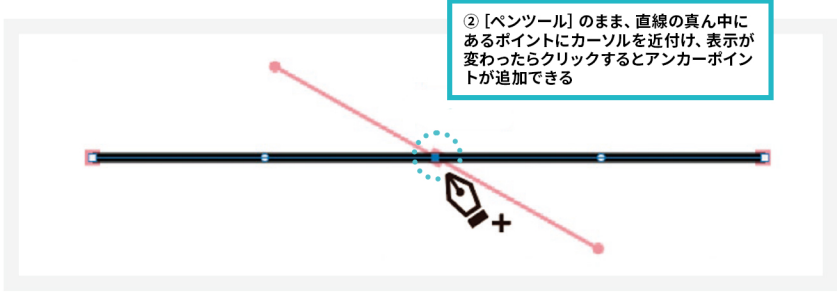
[option]（[Alt]）キーを押しながら真ん中のアンカーポイントをクリックすると、下半分のハンドルが削除されました。そのまま右の■をクリックし、[return]（[Enter]）キーを押して編集を終了します。

■ 後からアンカーポイントを追加して曲線にする

最後は「直線にアンカーポイントを追加してハンドルを引き出し曲線に変更する」方法です。左の■をクリックし、[shift]キーを押しながら右端の■をクリックして直線を作成します。この直線の真ん中にアンカーポイントを追加してみましょう。

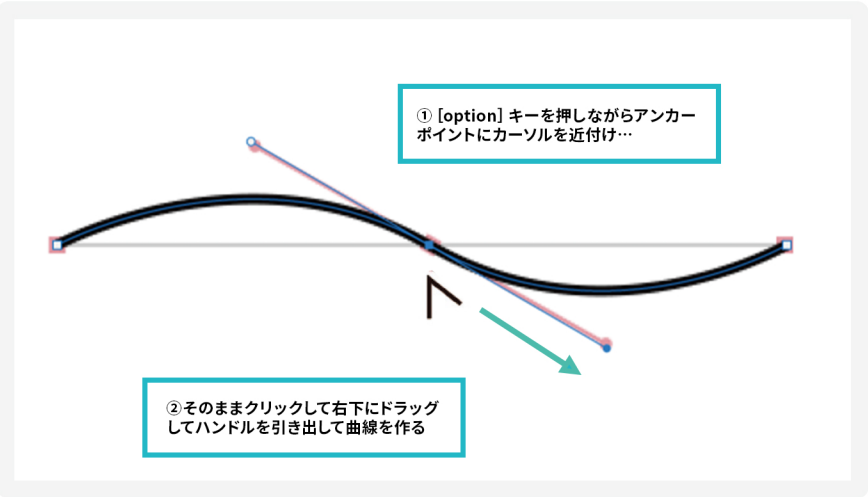


[ペンツール]のカーソルを直線の真ん中に近付けると、カーソルの右下が[+]表示になりました。そのままクリックするとアンカーポイントが追加されます。



今回はアンカーポイントを追加するためカーソルが[+]に変化しますが、既存にあるアンカーポイントにカーソルを近付けると[-]の表示になり、クリックしてアンカーポイントを削除できます。

[option] ([Alt])キーを押しながら、追加したアンカーポイントに再度カーソルを近づけると、[V]のような形になりました。そのままアンカーポイントをクリックして右下にドラッグします。これでハンドルが引き出されました。ハンドルがないアンカーポイント、ハンドルをやり直したいアンカーポイントを作る際に使いましょう。



関連項目 書籍の62ページ～「マスクを使ってできること」

「レイヤーマスク」「ベクトルマスク」「クリッピングマスク」の違いをマスターしましょう。

マスクには、大きくレイヤーマスク、ベクトルマスク、クリッピングマスクの3つがあります。実際に試しながら、それぞれの使い方や特徴をマスターしましょう。

■ レイヤーマスクをかけてブラシで範囲を変えてみよう

マスクの基本を理解するため、写真にレイヤーマスクをかけてブラシで表示・非表示してみましょう。「STEP-02-05-01.jpg」をPhoptoshopで開きます。

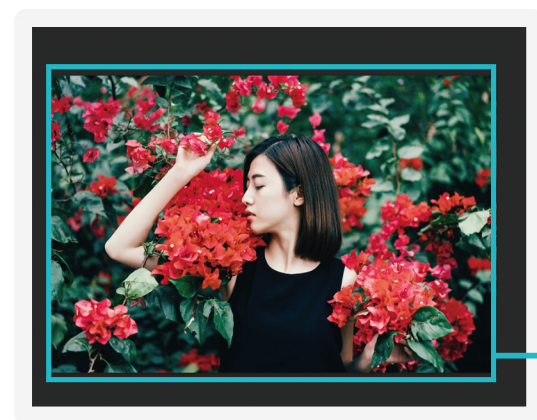
[レイヤーパネル] の [背景] レイヤーにレイヤーマスクをかけていきます。[レイヤーパネル] 下のアイコンから [マスクを追加] をクリックします。[背景] レイヤーの表示が変化し、右側に白い四角 (マスクサムネール) が追加されました。これがレイヤーマスクが追加された状態です。マスクサムネールが白の状態になっているときは、[表示] しているということです。キャンバスの写真表示に変化は見られません。



「レイヤーパネル」で、先ほど作成したレイヤーマスクサムネールをクリックして選択します。

ツールバーの「描画色」の色を確認して、黒でなければクリックしてカラーピッカーを開き「#000000」の黒に設定して「OK」で決定します。

「塗りつぶしツール」を選択し、キャンバス上でクリックして塗りつぶします。



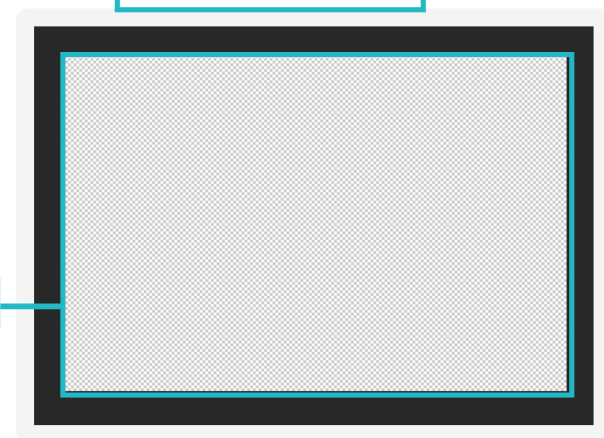
レイヤーマスクサムネールが黒く塗りつぶされ、写真が見えなくなりました。これは、写真が削除されたわけではなく、非表示になった状態です。

レイヤーマスクでは黒い部分は非表示、白い部分は表示されるため、写真の元データに影響することなく、不要な部分を見えなくすることができます。

⑥写真が非表示になった



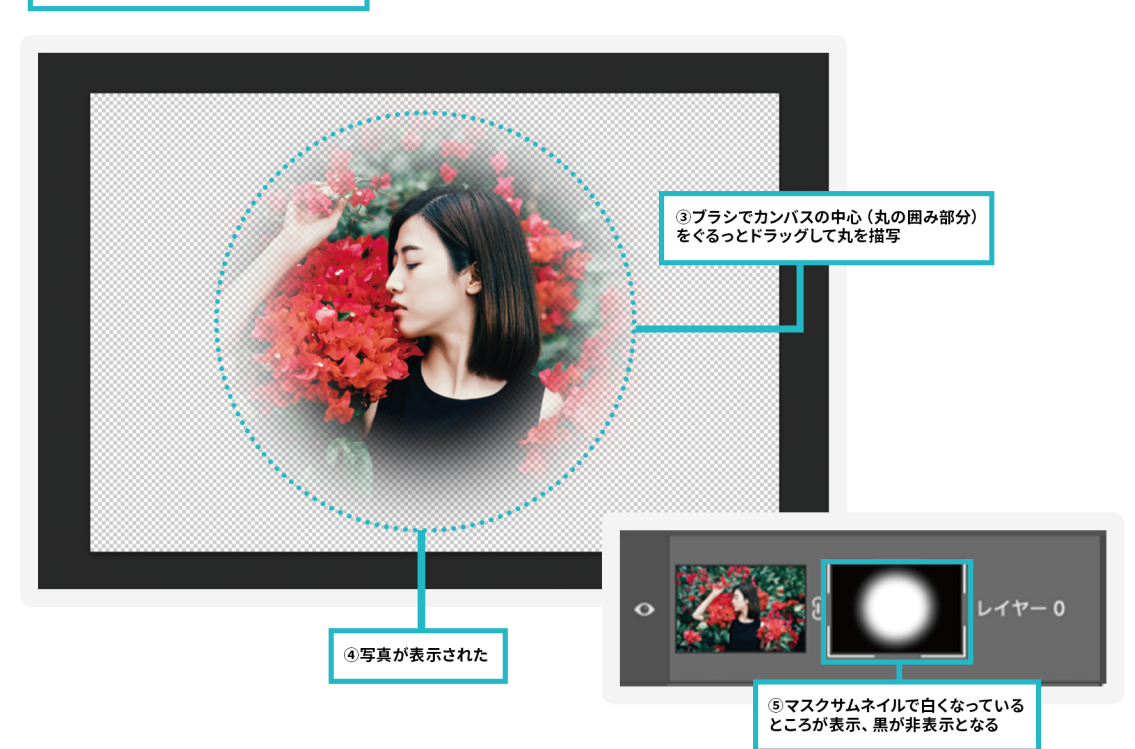
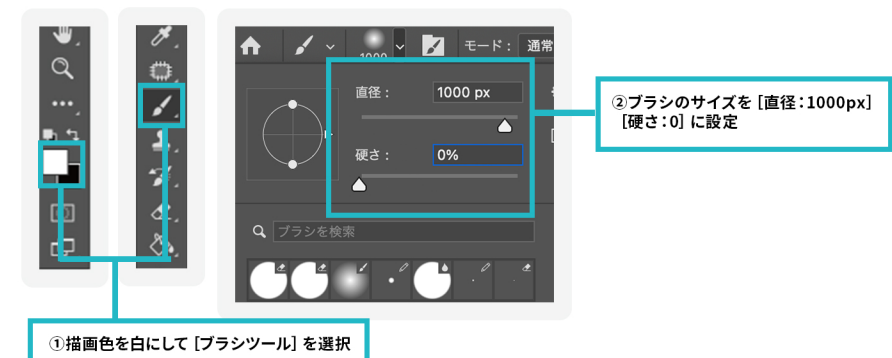
④キャンバス上でクリックして塗りつぶし



写真の一部を表示する

今度は、非表示にした写真の一部を表示してみましょう。

ツールバーの「描画色」の色をクリックしてカラーピッカーを開き、「#ffffff」の白に設定して「OK」で決定します。ツールバーから「ブラシツール」を選択します。オプションバーでブラシのサイズを「直径:1000px」「硬さ:0」に設定して、キャンバスの中心をぐるっとドラッグして丸く描画してみましょう。



キャンバス上で白を使って描いたところははっきりと写真が表示され、外側に向かってグラデーションで透明になるマスクができました。このように、レイヤーマスクでは、白い部分はキャンバス上で表示され、黒い部分は非表示となります。グレーは濃度に合わせて表示されます。



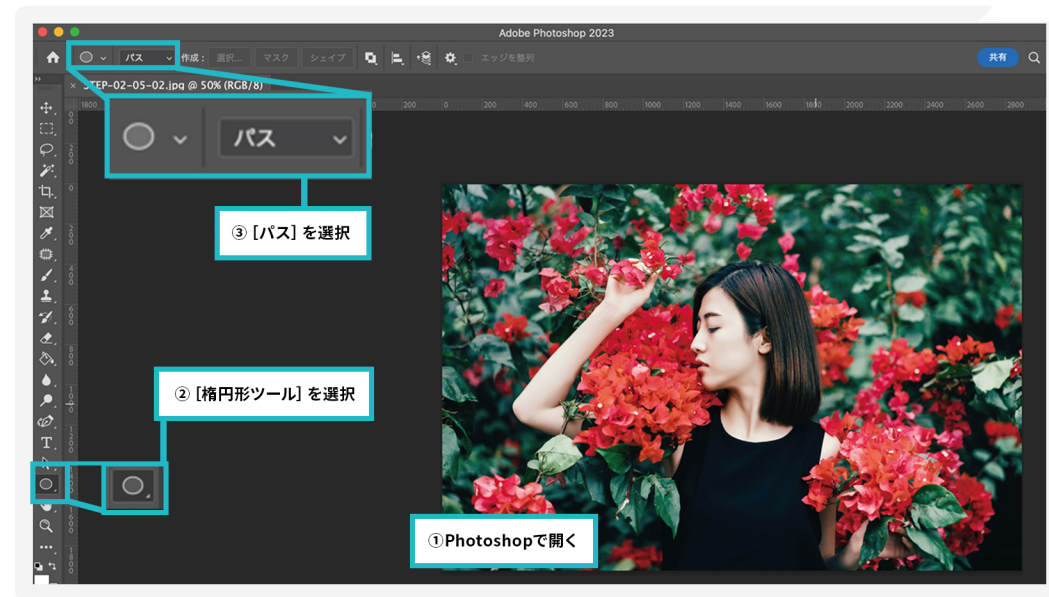
TIPS

レイヤーマスクはどんなレイヤーでも追加可能です。今回は写真を部分的に表示させる方法を紹介しましたが、色調補正したレイヤーをを部分的に表示させるなど、写真の一部分だけを明るくしたり、空の色だけを鮮やかにするなど部分的な補正をすることもできます。



■ 楕円形ツールでマスクする（ベクトルマスク）

[STEP-02-05-02.jpg] をPhotoshopで開きます。[レイヤーパネル] の [背景] レイヤーにベクトルマスクをかけていきます。ツールバーから [楕円形ツール] を選択し、オプションバーで [パス] を選択します。



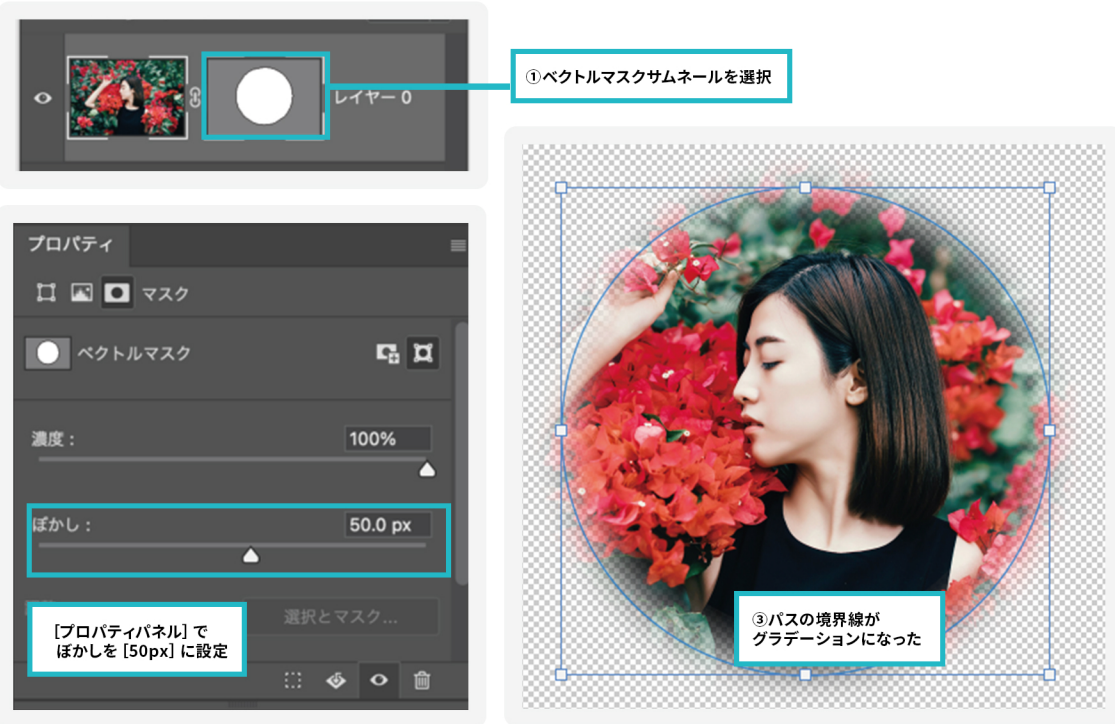
キャンバス上で [Shift] キーを押しながらドラッグして、パスの丸を描きます。[パス] は [シェイプ] と違って、レイヤーに現れないため、[レイヤーパネル] には変化がありません。



[パス] を作成したら、オプションバーで [マスク] をクリックします。キャンバスの写真がパスの形に切り抜かれ、[レイヤーパネル] にベクトルマスクサムネイルが追加されたのがわかります。



[レイヤーパネル] でベクトルマスクサムネールを選択すると、[プロパティパネル] で [濃度] と [ぼかし] が設定できるようになり、ベクトルマスクでもぼかしをかけることができます。[ぼかし: 50px] とすると、パスの境界線がフワッとぼやけたマスクに変化しました。



■ テキストの形でマスクする (クリッピングマスク)

[STEP-02-05-03.psd] をPhotoshopで開きます。[レイヤーパネル] を確認すると、①テキストレイヤーと②オレンジのレイヤーが4つ、③水滴レイヤー、④背景の塗りつぶしレイヤーがあります。

今回は一番上にあるテキストのレイヤーを親として、テキストの形にオレンジと水滴のレイヤーをマスクします。

上から、テキストレイヤー、オレンジレイヤー4つ、水滴レイヤー、背景塗りつぶしレイヤーが表示されている



クリッピングマスクの親レイヤー（ここではテキストレイヤー）は、子レイヤー（ここでは水滴レイヤーやオレンジレイヤー）たちの一番下に配置します。



テキストレイヤーを選択して、塗りつぶしレイヤーの上に移動

クリッピングマスクを作成するときは、どのレイヤーを使ってマスクを作成するかが重要です。今回は、オレンジのレイヤー4つと水滴のレイヤーを [Shift] キーを押しながら複数選択し、[レイヤーパネル] のサブメニューから [クリッピングマスクを作成] を選択します。

[shift] キーを押しながら選択で、レイヤーを複数選択できる





[レイヤーパネル] では、子レイヤーのサムネールの左側に矢印が表示されています。



TIPS

クリッピングマスクが他のマスクと異なるのは、レイヤーに結束力がないことです。子レイヤーたちは親レイヤーとリンクすることなく、自由に動かすことができます。[レイヤーパネル] でオレンジのレイヤーを選択して、[移動ツール] で動かしたり、[command] ([Ctrl]) + [T] キーの自由変形で大きさを変えてみると、マスクされた状態にもかかわらず、親レイヤーに干渉されずに自由に変更することができます。



関連項目 書籍の72ページ〜「写真の色調補正について知る」

実際に写真の色調を補正をしてみましょう。

色調補正を試してみよう

[STEP-02-06-01.jpg] をPhotoshopで開きます。色味や鮮やかさを調整する[色相・彩度] を実際に使ってみましょう。[レイヤーパネル] で[背景] レイヤーを選択し、右クリックで[スマートオブジェクトに変換] をクリックします。



[イメージ] メニューから[色調補正] → [色相・彩度] を選択します。



「色相・彩度」の設定ウィンドウが開いたら、真ん中の「彩度」のメモリを左側にドラッグして移動します。

キャンバスがプレビューされて鮮やかさが減っていくのがわかります。違いを感じられる色味になったら「OK」をクリックして決定します。



キャンバスに戻ると、色調補正前より色の鮮やかさが減っています。また、スマートオブジェクトのレイヤーには「スマートフィルター」が追加されています。スマートオブジェクトは直接変更を加えることができないため、擬似的に「スマートフィルター」をかけて色調補正を適用させているのです。



TIPS

スマートオブジェクトに変換せずに、直接レイヤーの色調を変更することもできますが、やり直しが効かないため、デザインの作業には向いていません。必ずレイヤーをスマートオブジェクトに変更するかこの次に説明する調整レイヤーを使用して色調補正をするようにしましょう。

■ 調整レイヤーを使って色調補正を試してみよう

「STEP-02-06-02.jpg」をPhotoshopで開きます。ファイルの中身は先程使用したものとまったく同じです。「レイヤーパネル」下にある丸いアイコン「塗りつぶしまたは調整レイヤーを新規作成」をクリックして、「色相・彩度」をクリックします。



「レイヤーパネル」に新しいレイヤー（調整レイヤー）が追加され、「プロパティパネル」が「色相・彩度」の設定パネルになりました。彩度を左に移動させて、鮮やかさを下げてください。



「レイヤーパネル」で「調整レイヤー」を選択すると、
「プロパティパネル」で何度でも調整が可能です。

「調整レイヤー」を選択
するとプロパティパネルに
「色相・彩度」の項目が
表示される

「色相・彩度」をかけることで、先程と同じ仕上がりに
なりました。「レイヤーパネル」で、「色相・彩度」のレ
イヤーの左にある目のアイコンをクリックして非表示に
してみるとキャンバスは元の写真の色に戻りました。
先ほど行った作業は「背景」レイヤーを変化させたの
ではなく、「色相・彩度」がフィルターのように色を変
化させる効果を持っているということがわかります。



「調整レイヤー」はこのように、自分よりも下にあるレイヤーに対して明るさや色を変化させるライ
トのような存在です。写真のレイヤーを直接変化させないので、デザイン作業の中でも何度でも
再編集できるという特徴があります。

